

V233a 広視野観測装置 AROMA-W の移設に伴った観測環境の再構築と今後の運用方針について

菅井駿、高橋一郎、川村大地、坂本貴紀、吉田篤正（青山学院大学）

現在、吉田研究室では12台の民生用デジタル一眼レフカメラ及びアマチュア用赤道儀を用いた広視野観測装置「AROMA-W」の開発・運用を行っている。先行研究により、赤道儀の制御からカメラのシャッター制御、データ転送、画像解析までの自動化が行われた(2010年秋季年会 V37b、他)。

これまで運用は青山学院大学相模原キャンパスのL棟屋上で行われていたが、観測効率をさらに向上させるため、青山学院大学が所有する町田グラウンドへ観測小屋「POD (Personal Observatory Dome)」の設置と共に観測装置の移設を行った。現在、本格運用に向けて、テスト観測などの最終調整を行なっている。今後の運用方針として、観測衛星の速報データと連動し、地上からの即時観測を目標としている。特に、来年以降に運用開始予定のLIGOやVIRGOによる重力波イベントの検出に対して、AROMA-Wの $30^\circ \times 45^\circ$ という広視野を活かした追観測を狙っている。これらが運用開始となる前には、Fermi-GBMやSwift-BATのGRB速報の追観測を行うことで、今後の速報データに対する追観測の精度を上げていくことを計画している。

本講演では観測装置の移設についてと現在の運用体制について報告する。